



▲一人一人の日本語力や学習状況に合わせて、1対1でサポートを行っています



外国人の子どもたちに、日本語や教科学習をサポートするボランティア団体「外国人の子ども・サポートの会」の皆さんにお話を伺いました。

生徒に寄り添い信頼関係築く

エル・ソーラ仙台の市民交流スペースで「外国人の子ども・サポートの会」の活動は行われています。この日も、学生の方が日本語の参考書を片手にやりとりしながら、熱心に勉強されていました。代表の田所希衣子さんは「外国人のお母さんたちから子どもが学校の勉強についていくのが大変と相談を受け、会を立ち上げました。現在は、約50人のサポートが、37人の外国人の生徒に日本語や教科を教えています。弟や妹と一緒に勉強するような気持ちで活動することを大事にしていま

す」と話します。ネパールから来た中学3年生を教える山内藍子さんは「分からないときは一緒に調べるなど、楽しく勉強しています。一生懸命な姿に『私も頑張らなきゃ』とエネルギーもらっています」と話します。「留学生を担当していて、1人はこの春日本の大学に進学しました。日本で多くのことを学び、母国の発展に尽くしたいという強い思いに、尊敬する気持ちも持つてサポートしています」と櫻井香織さん。生徒の皆さんの真摯に学ぶ姿勢が、活動の原動力にもなっているのです。松井将大さんは「外国で生活した経験があるので、気持ちを共有できる部分があります。疲れが見えるときには話を聞いたり、息抜きしたりするなど、コミュニケーションを大切にしています」と話します。温かく寄り添いながら信頼関係を築いていくことで、学びを後押ししているのだと感じました。

みんなで支えるやさしい街に

最近では両親とも外国人で、日本で生まれた子どもが増えており、「言葉の力」をどう育てるかが課題とのこと。「親も日本語が分からず、家にこもりがちになります。言葉を学ぶには家庭での積み重ねも重要。その支援も必要です」と田所さん。また、皆さんは外国人の視点で日本での生活を考えたときに、さまざまな気付きがあったと話します。松井さんは「標識などにふりがなやローマ字表記の配慮があったら」と、櫻井

さんも「やさしい日本語が広まって、日本語が分からない人にも伝わる社会であってほしい」と願いを込めます。田所さんは「小さい子どものサポートはどなたでもできると思います。身近に外国人の子どもがいたら手助けしてほしいです。子どもたちが大人になったときに、社会で生きる力を育んでいけるよう、サポートしていきたい」と決意を語ってくれました。

多様性を地域の豊かさに

外国人の子どもたちが増える中、日本語の授業などに困難を抱えることも少なくありません。子どもたちを優しく見守る皆さんの存在が、学習面だけでなく、精神的にも大きな支えになっているのだと感じました。

外国人も日本人も共に地域の一員として暮らしていくには、互いに文化や習慣を理解し、認め合うことが大切。こうした多様性を尊重することは地域の豊かさや活力につながります。今後とも、誰もが安心して生き生きと暮らせるまちづくりを進めてまいります。

団体紹介

外国人の子ども・サポートの会



田所希衣子さん



山内藍子さん



櫻井香織さん



松井将大さん



再生紙を使用しています 紙へリサイクルできますので、雑誌として分別してください